

## 滞納 前年度3億5千万円未納 滞納額は計31億円に

税金や使用料、貸付金などで前年度に納められなかった金額は、およそ3億5千万円。全体で89.7%の収納率（税は94.2%）でした。それ以前から残る滞納額との合計は、約31億円にまで膨らんでいます。

平成18年度の主な滞納額	
町民税	1億2,173万円
固定資産税	2億6,356万円
軽自動車税	2,843万円
国民健康保険税	2億2,587万円
保育料	5,402万円
汚水処理施設使用料	975万円
住宅使用料	1億7,357万円
住宅管理料	1,027万円
学校給食費	2,569万円
住宅新築資金等貸付金	19億0,552万円
水道使用料	2億5,282万円

18年度決算その6

## 地方債 借金残高は260億円 1人あたり約100万円

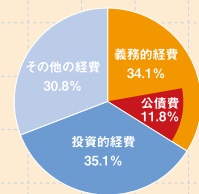
年度を越えて元利を償還する借入金を「地方債」といいます。18年度末の地方債残高は17年度から約23億円増えて260億円となりました。人口1人あたりに換算するとおよそ100万円になります。福智町の場合、償還額の一定割合が地方交付税措置されるものが多く、試算では60%近くの算入が見込まれますが、財政負担の割合も増大しています。今後は合併効果を表しながら借金を減少させなければなりません。



18年度決算その5

## 歳出 一般会計186億2千852万円 21億円を公債費にあてる

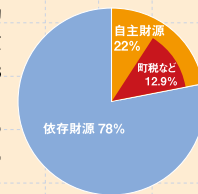
年度に町が支出した一般会計の総額は186億2千852万円。これを性質別に見ると、人件費・扶助費・公債費の「義務的経費」が約63億5千万円で全体の34.1%、そのうち借金を返済する公債費は約21億円で全体の11.8%となっています。また「投資的経費」は約65億3千万円で全体の35.1%、そのうち普通建設事業費が約46億7千万円で全体の25.1%をしめています。



18年度決算その2

## 歳入 一般会計195億6千218万円 依存財源が約8割しめる

町に入った昨年の一般会計の歳入は195億6千218万円でした。その内訳は、国や県に頼った依存財源が78%、町でまかなう自主財源が22%となっています。しかし自主財源には全体の3.8%にあたる基金の取り崩し（約7億4千万円）や前年度からの繰越金（約10億8千万円）が含まれているので、実際の町税などの収入は12.9%で、全体の1割ほどしかありません。



18年度決算その1

### その対策 03 19年度は▶ 滞納額解消に向け全力 徴収体制強化

深刻な滞納問題に対し、町は差し押さえなどの滞納処分に取り組むため、税務課に収納対策係を設置しました。現在、県の地方税収対策本部・特別機動班の協力を受けながら、町の管理職全員と担当職員が戸別訪問をして滞納整理を進めています。7月に行った町税等納付強化月間を12月にも実施し、一層の収納強化を図ります。



18年度決算その8

### その対策 02 19年度は▶ 機構・施設の効率化を図る スリム化検討

旧町から引き継いだ153におよぶ公共施設の経費が町の財政を大きく圧迫していることから「公共建物及び施設検討委員会」を立ち上げ、今後の施設のあり方について現在協議を進めています。また「機構改革検討委員会」が行政組織のスリム化を図るため、新町にふさわしい体制づくりを検討し、本年度中に答申を出す予定です。



18年度決算その7

### その対策 01 19年度は▶ 集中改革プランを立案 行革指針策定

行財政改革大綱答申を受けて組織された行革推進本部が9月末に「集中改革プラン」を策定しました。本年度から23年度までの5か年計画で、職員数の30人削減や8億円の人件費削減など、82の項目ごとに検討期間や実施年度、数値目標を掲げています。今後、このプランをもとに行革を進め、効率的な行財政運営を推進します。



18年度決算その4

# 決算

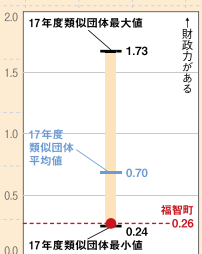
平成18年度 まちの財政通信簿

福智町の事実上初年度となる平成18年度決算がまとまりました。旧町の財政規模を引き継いだ厳しい状況となっています。ここで、その対応も含めた本年度の町の動きもチェックしてみましょう！

18年度決算その3

## 財政力 国への依存度が高く 財政基盤が弱い

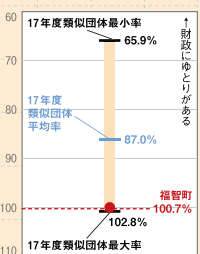
基準財政収入額を基準財政需要額で割った過去3年間の平均値が「財政力指数」です。指数が高いほど自力があり、指数が低いほど国への依存が強いといえます。町の財政力は17年度類似団体の最小値とほぼかわらず、全国最低の水準です。今後、収納率の向上や企業誘致など、財政基盤の強化が求められます。



18年度決算その8

## 経常収支 100%を超え いまだ赤信号

人件費など毎年必ず必要とする経費を比較的安定している収入で割った指数が「経常収支比率」です。「財政構造が弾力性を失い硬直化している」とされる危険ラインを超え、福智町の普通会計の経常収支比率は100.7%となっています。17年度より0.8%下がりましたが、依然として財政のゆとりはありません。



18年度決算その7

## 基金 18億の振興基金を新設 貯蓄は約132億8千万円

法律や条例に基づいて設置される「基金」は、特定の目的のために活用することができます。普通会計では23の基金があり、18年度末の残高は約132億6千5百万円。また特別会計の2つの基金の残高は約1千9百万円で、町の基金の合計は17年度からおよそ17億円増え、約132億8千4百万円となっています。一般財源の負担が少ない合併特例債を借りて、新たに約18億円の振興基金を積み立てています。



18年度決算その4

## 特別会計 国保がピンチ 診療所も赤字

特定の事業を行うために一般会計と区分して設置される特別会計では、国民健康保険特別会計が約2億2千万円、町立診療所事業特別会計が約9千万円の赤字を出し、厳しい状況に直面しています。

区分	歳入	歳入歳出差引
老人保健特別会計	27億8,034万円	-5,043万円
国民健康保険特別会計	24億3,131万円	-2億2,207万円
町立診療所事業特別会計	9億1,573万円	-9,281万円
同和地区住宅新築資金等貸付事業特別会計	3億3,823万円	+2,688万円
宅地造成事業特別会計	1億2,709万円	+159万円
水道事業会計	5億7,433万円	+875万円

18年度決算その3